



TITLE:

司会

AUTHOR(S):

倉本, 信二

CITATION:

倉本, 信二. 司会. 日本外科宝函 1989: 37-38

ISSUE DATE:

1989-12-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204402>

RIGHT:

司 会

天理よろず相談所病院主幹 倉 本 信 二

島根医大の中瀬先生の講演をお願いすることになっています。

中瀬先生は、昭和28年、京都大学を卒業されております。そして、32年に大学院にご入学になっております。35年3月に大学院退学という、このメモによるとそういうことになっております。この退学ということですが、実際はこれは旧制大学院がなくなりまして退学願を出してくれということで退学されたと思います。ここからあとは新制大学院になります。その後、昭和41年、また大学の方へお帰りになりまして、それから学園紛争の中、助手、講師、助教授と歴任されまして、昭和51年4月、島根医大にご就任になりました。その大学院に入学されて、本庄教授の Schüler となられた時から、肝臓、膵臓、胆道に関する研究をずっと続けておられまして、現在もそれを30数年一途に続けておられます。つい先にも小澤教授からお話がありましたけれども、島根医大の肝臓移植という問題がテレビで報道されました。その時、私はテレビを見ましたんですけども、執刀者の助教授の名前だけが出ましたので、中瀬先生が肝臓移植をやったのかと思った次第でございます。そうでなかったようでございます、続いて今度は、数日たって、膵臓移植の問題が、これは中瀬教授の名前で報道されました。膵臓移植に関しましては、数年も、もうちょっと前からですか、基礎的研究を続けておられまして、まあ、本庄先生がご存命の時などでも、膵臓の自家移植なんかの成功例はお話合いになっていられたと思います。そういうことで、膵臓の方ももちろんでございますけれども、本日はそこにございますように肝細胞癌に関してお話ねがうことになっております。まあ、肝臓は非常に毛色のかわった臓器で、昔から再生を行う唯一の臓器であるとか、免疫に関しても、それから抗がん剤に対しても、特異の反応を示すというようなことを、中瀬先生からお聞きしたことがございます。で、私もちょっと、肝臓を悪くしておりました時期がございます。この会場の先生がたもおそらく、酒ののみすぎとか、はたらきすぎとかで肝臓に問題をもっておられる先生方も多いのではないかと思います。その将来の肝硬変、それから肝癌を心配されている先生方も案外多いんじゃないかと思います。それに対して、この本日の演題は非常に興味のある演題かとも

思いますので、新しい所見をひき下げて、講演願いたいと思います。中瀬先生どうぞよろしくお願いします。